

令和2年2月3日

地域づくり交流会実施報告書

白山ユネスコエコパーク協議会
事務局 和田 巖

テーマ	「つなげよう・ふかめよう白山の”わ”」		
ラウンド トーク 講師氏名	ママードウァ アイダ氏 (金沢大学国際機構特任准教授) 飯田義彦氏 (金沢大学環日本海域環境研究センター連携研究員)		
日 時	令和2年1月26日(日) 13時00分 ~ 17時00分		
会 場	高山市荘川支所(岐阜県高山市荘川町新湊430番地1)		
参加団体名	14団体(※1)	参加人数	33人
交流会概要	◆第一部 学ぶ ・白山ユネスコエコパーク勉強会 「白山ユネスコエコパーク基礎講座」 ・ラウンドトーク 「白山ユネスコエコパークと国際連携」 「白山ユネスコエコパークと地域連携」 ◆休憩 ~コーヒープレイク~ 白山きりまんじゃろ と各地域のお菓子 ◆第2部 つながる グループトーク(参加者が4つのグループにわかれてワークショップ) 課題、共通点、今後の活動や連携について ◆第3部 つなげる 全体交流トーク グループごとの対話について、発表。 全体交流トーク 講評		
参加者の 意見等	多様な地域から多様な人々が集まっていることを感じ、ワクワクしました。 ワークショップでもありましたが、国際的な称号があるだけでなく、 「そこにつなげる人がいるのか?」という課題。 私自身も今回、あらためて学んだことがたくさんありました。 どのように活かすか考え試行錯誤したいと思いました。		
そ の 他	別途資料※2 参加者報告 成果物※3 グループの共有シート、活動の足跡シート		

※1 参加団体名

公益財団法人 世界遺産相倉合掌造り集落保存財団

石徹白地区地域づくり協議会

石徹白エコツーリズムと地域起こし支援隊

白鳥観光協会（地域おこし隊員）

シラミネ大学・白峰林泊推進協議会

NPO 法人白山しらみね自然学校”

Earth Action 福井

林檎ののうち

勝山市観光まちづくり株式会社

南砺市観光協会五箇山支部

五箇山自然文化研究会

(有)森下商会

トヨタ白川郷自然学校

白山ユネスコエコパーク協議会

（福井県、南砺市、白山市、勝山市、高山市、郡上市、NPO 法人 環白山保護利用管理協会）

参加者記念撮影



別途資料※2 地域づくり交流会報告

報告記載者 大西 琢也

(石徹白地区地域づくり協議会、石徹白エコツーリズムと地域起こし支援隊2年目)

第1部の「学ぶ」では、3人の講師から基礎的な知識や現状を学ぶことができました。

ユネスコエコパークってなんでしょう？

“1976年(昭和51年)にユネスコが開始した取り組み。
世界遺産が手つかずの自然を守る事を原則とする一方、
ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共存)を目的とする取り組みです。登録総数は、122カ国、686地域(国内9地域)。*
2018年(平成30年)7月現在。“ <http://hakusan-br.jp/br/> から引用

基礎講座の中でユネスコエコパークの「3つの課題」として

- ・行政だけの話に留まっている
- ・地域の中で浸透していない
- ・何をしたいかわからない
- ・・・といった話がありました。

石徹白地区にあてはめてみると。

私達が暮らしている場所には3つのゾーニング・地域の全てがあります。

「核心」地域としては石徹白大杉の周辺から銚子ヶ峰方面。

「緩衝」地域は白山中居神社から大杉林道沿いの地域。

「移行」地域は私達、住民が住んでいる場所や桧峠なども含まれています。

いふなれば、石徹白はすっぽりとまるごと、白山ユネスコエコパークの中にあるということです。

しかし、「白山ユネスコエコパーク」を示す道路脇の旗がボロボロなままだったり、住民でも来訪者でもそれほど話題に上がらないのが現状です。

(その後、白山文化博物館(郡上市)の学芸員である鈴木さんにお声掛けいただき、旗をいただけることになりました。これも交流会の成果です。ありがとうございます。)

===

アイダさんによる国際連携のお話しの中では、英語と日本語の違いを認識しました。

ユネスコエコパークは国内で親しみをもってもらうためにつけられた通称で、海外では「BR: Biosphere Reserves(生物圏保存地域)」と呼ばれています。海外で、エコパークと言っても通じないので気をつけます。

金沢大学では留学生インターンシッププログラムが行われていること。
日本国内の大学で唯一の教育活動。

目的は

日本人や留学生にたいして、地域課題、文化、持続可能な発展を学ぶ
地域自治体や地域市民と連携し、教育を行う。
世界のエコパーク地域と連携し、共育活動を行う。

これまでに 270 名以上の参加実績をもっているそうです。
特に白峰（石川県白山市）で泥さらいや祭りへの参加など
地域の課題とともに取り組んでいる活動が印象に残りました。

学生の自己評価も変化が見られるということで、
地域貢献だけでなく、一人ひとりの人生にも継続した効果がありそうです。

石徹白地区にも、様々な課題が在る中で、一緒に何かできることがあると思いました。

“白山ユネスコエコパークの中心には、標高 2,702m の霊峰白山が位置します。
白山の特徴と言えば、高山植物、豪雪、ブナ林、山村、白山信仰等が挙げられます。
日本の高山帯分布の最西端に位置し、世界で最も赤道に近い豪雪地帯の 1 つです。
この白山をとりまく白山ユネスコエコパークでは、白山の自然や文化の価値を守り伝える
人々が、様々な取り組みや活動を行っています。”

http://hakusan-br.jp/hakusan_br/ から引用

===

飯田さんから、「白山ユネスコエコパークと地域連携」のお話し。

白山の世界に誇れる特徴を踏まえた上で
白山ユネスコエコパークというツール（見方）を使ってどうするか。

◆ 3つの機能から地域活動を見直す

- ・生物と文化の多様性の保全はできているか？※最近になって文化が重視されてきた。
- ・環境にも社会にもやさしい経済発展を進めているか？
- ・調査、モニタリングや次世代のための教育研修はできているか？

◆ 3つの地域区分から地域運営を見つめなおす

- ・核心 自然がまもられているか
- ・緩衝 自然から人が学んでいるか
- ・移行 自然の恵みを活かして人が暮らせているか

◆ フレーム

ユネスコと言うブランドの使い道を考えたり、
国内外の仲間と意見交換を進めたりすることができる

白山ユネスコエコパークの面白いところは、複合型ユネスコエコパークである。

世界農業遺産 FAO の認定「清流長良川の鮎」

世界文化遺産「白川郷五箇山の合掌造り」

ユネスコ無形文化遺産（祭り）

白山手取川ジオパーク

恐竜渓谷福井勝山ジオパーク

国際的な取り組みの他にも、

白山ユネスコエコパークのエリア内に居住している 1 万 6 千人の人口が
4 つの河川流域人口およそ 540 万人の生活を支えている。

移行地域には、既に資源（リソース）がある。

石川県の焼畑や山野草、薬草など歴史的な背景と現代の活用についても
言及されていました。

====

参加者同士の対話型ワークショップは、
同じような課題だけでなく、新しい発見もあり、楽しく和やかに

私も実際のところ、住んで自分事になるまでは、
白山がこんなに面白い場所だとは知りませんでした。

それぞれの特徴や多様性を生かしつつ、連携できたらと思います。

以上



成果物※3 活動の足跡シート

令和元年度 白山ユネスコエコパーク「地域づくり交流会」

活動の足跡

【トークテーマ】 白山の恵みを活かす

森下裕基 宮田史
町澄秋
あまき
島由白
大西政也
山田浩太郎



Y.Ike 山田俊行
鈴木和士
田邊経夢
城道 徹司

Aida Mammadova

飯田義孝

山郷三昭

川木洋子

山崎麻由

辻孝司

宮田雅晴

本町裕介

河合保隆

森石慶裕

平田豊信 酒井省吾

中島 仁司

西村一美

〈意見共有シート〉 石田巖



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ

令和2年1月26日(日) 荘川総合センター(高山市)にて